

# 婦人科外来からのお知らせ

40歳以上の成人女性の2人に1人は尿漏れの経験があり、そのうちの63%は「年のせいだから仕方が無い」と諦めていて、38%は「正しい治療を受ければ治るだろう」と考えていたにも関わらず、実際に病院にかかった人はわずか3%しかいなかった、というアンケート調査があります<sup>1)</sup>。

## ➤ そもそも…尿失禁(尿漏れ)のタイプとは？

- ①腹圧性尿失禁：咳やくしゃみなど、ふとしたはずみにもれる
- ②切迫性尿失禁：トイレに行きたいと思ったら我慢できない、間に合わない(過活動膀胱など)
- ③反射性尿失禁：尿がたまっていないのに反射的に膀胱が収縮してもらしてしまう(脊髄の病気など)
- ④溢流(いつりゅう)性尿失禁：普段から尿が出にくくてタラタラともれてしまう(男性の前立腺肥大症など)
- ⑤機能性尿失禁：体が不自由で機敏に動けないためにトイレに間に合わない(脳梗塞、認知症など)

女性の尿漏れは  
手術で改善できる場合があります。

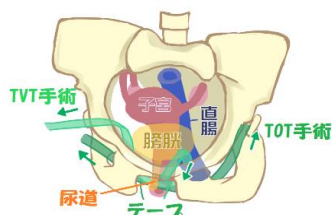
手術ができるのは「腹圧性尿失禁」だけ。  
女性の尿漏れは 約7割が「腹圧性尿失禁」です。

## ➤ 腹圧性尿失禁とは？

女性、特に出産直後や40歳代後半くらいからの女性に多く、尿漏れの患者さんの大半を占めるのが腹圧性尿失禁です。咳・くしゃみをした時、立ち上がろうとした時、重いものを持ったりした拍子にもれるタイプです。特に経膈分娩の経験者に多い傾向があります。骨盤底の筋肉が弱り、膀胱や尿道をきちんと支えられなくなってしまったためと考えられています。

「切迫性尿失禁」と混ざって、「混合性尿失禁」になる場合も良くあります。<sup>2)</sup>

## ➤ 腹圧性尿失禁の治療法(手術)とは？



中部尿道スリング(TVT手術またはTOT手術)と言います。膈からの手術で、テープ状のメッシュを尿道周囲に挿入し、尿道のぐらつきを押さえる方法です。当科では通常、術後3日目に退院としています。

## ➤ 尿漏れは、骨盤臓器脱(子宮脱、膀胱瘤など)とも関連があります。

腹圧性尿失禁のように、骨盤底がゆるんで起こる病気に「骨盤臓器脱」があります。

入浴時に「膈からピンポン玉のようなものが出てきた」と気づかれる方が多く、押し込まないと排尿が難しい方もいます。

「尿漏れ」や「骨盤臓器脱」でお困りの方はご相談ください。

1) 上田朋宏ほかInt.J.Urol.7.:95-103,2000  
2) 巴ひかる 尿漏れ治療が分かる本 築地書館 2002